

こども病院前の巴川は菜の花が満開です。川の両側に広がる黄色いじゅうたんは美しさを誇り、感動を与えてくれます。菜の花の花言葉は「豊かさ、財産」、密集して美しく咲き誇る様子を現しているのでしょうか。美しさだけでなく花に含まれるスルフォラファンは解毒作用や抗酸化作用があり、ストレスやガンの発生を抑える効果もあるそうです。

<第129回 ほほえみの会 >

初めての方3組と図書館の司書、塚田さんを含め8人が参加しました。

- ▽ 小学5年男の子、慢性骨髄性白血病。右足が痛く熱もあったので近くの病院で診てもらった。骨の異常はなかったが血液検査で病気がわかる。本人も病気の説明を受けたが良く理解していないようだ。学校では病名も公表をしている。これから病気の知識のない人たちの偏見が心配で将来の不安がある。
- ▽ 中学2年生男の子、急性骨髄性白血病。部活では柔道をやっているが中学に入って学校を休むこともなく元気だった。10日ぐらい前から貧血気味でひざの痛みがあつて病院へ行き、血液検査で病気がわかる。本人は親が思うほどには深刻ではなく、高校に行つて柔道をやりたい希望がある。
- ▽ 3歳男の子、神経芽細胞腫。3回目の治療に入ったが転移した腫瘍が消えないので薬を変える予定。末梢血の採取を行う。浜松に住んでいたが入院と共に静岡の母親の実家に移り住み、父親は浜松まで仕事に通っている。今後、治療にどのくらいの時間がかかるのか。父親の仕事を変えようか悩む。

- ▽ 1歳11ヶ月男の子、急性リンパ性白血病。母親ペルー出身、父親は日系2世。来日6年、日本語を十分に話せないで困る。子どもは12月までは腕白だった。1月に入り高熱が出た。近くの病院ではインフルエンザの検査は何回もしたが、風邪薬をだしてくれるだけ。体全体が痛いといつても、顔色が悪くても、食欲がなくて、発疹が出ても、血液検査はなかなかやってくれなかった。ようやくやってくれた血液検査ではヘモグロビンがほとんどない状態ですぐにこども病院へ入院をした。しかし、ばい菌が入って発熱がありなかなか治療に入れない。子どもの苦しむ様子を見るのがつらい。母親はペルーで薬剤師だった。ペルーでは薬を手に入れるには1ヶ月ほどかかり、お金も必要。また、毎日の輸血などはとても出来ない。病院の設備も全く違って日本は素晴らしい。発病が日本でよかった。また、食事に刺身やフルーツが出るがインターネットによれば白血病には生の魚やフルーツはだめと書いてあるので心配。また、病棟には風邪やアトピーなどの人も入ってくるので感染が心配。
- ▽ 図書室司書の塚田さんも参加してくださいました。本館4階の医学図書室が3年ほど前から一般に開放されて利用できるようになっていたとのこと。医師の言葉などでわからないことがあれば、情報提供は出来るので是非利用をしてくださいとのこと。塚田さんは午前中は図書室に居ることが多いとのこと。また、インターネット情報は古いものが多く、マユツバものや、中には宗教関係など信用できないものも多く注意が必要とのこと。病院に新たにソーシャルワーカーが入られたそうです。困ったときには相談に乗ってください。

次回は 4月9日(日) 11時からです

ほほえみの会 代表 池田恵一 TEL054-247-9560

E-mail アドレス k_likeda@yahoo.co.jp

ホームページ <http://www.geocities.jp/hohoeminokai/>